

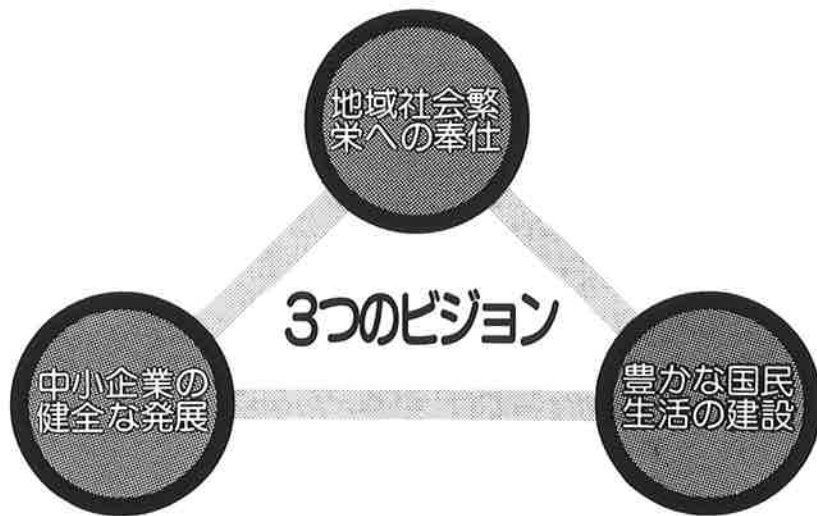
ともえ No. 40



■函館商工会議所報■

1984 3月号

親しめる
頼れるみんなの
商工会議所



はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町字飯生町30番	TEL73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511(代)	尻岸内支店	亀田郡尻岸内町字中浜115番の4	TEL84-2111(代)
弁天町支店	函館市弁天町15番6号	TEL26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521(代)			

ともえ

1984 **3** No.40

巻頭言

政府は二月十日、テクノポリス(高度技術集積都市)計画の地域指定について、函館地域など全国十四カ所の申請地域を条件つきですべて指定する方針を正式決定しました。函館地域の問題点としては一、企業誘致の実績が少なく工業用地の確保に難点がある。二、住宅、住宅用地の供給計画不十分。三、自然科学系の試験研究施設が少なく。四、高速道路がない。など改善すべき課題が指摘されています。

これらの課題の解決に時間がかかる函館など五地域は今秋までさみだれ式に指定することが決まりました。

第二次産業二二%と低率の函館市にとっては、この指定を挺子として、二十一世紀への産業の基盤をつくり、活性化を図ることが必至の要件です。

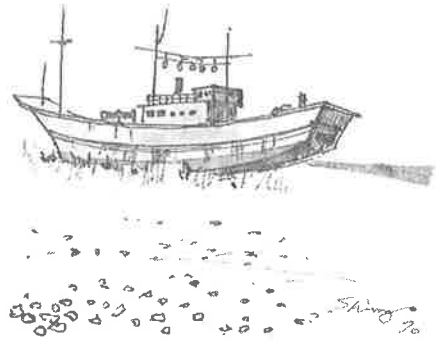
道の強力なるご指導の下に、財団法人テクノポリス函館技術振興協会の設立準備も終り、道一億円、一市三町一億

目次

☑ 巻頭言	1
☑ 会議所だより	2~5
☑ 調査レポート	6~9
☑ アドバイスコーナー	10~11
☑ 寄稿文	12
☑ 制度紹介	13
☑ ご存じですか	14~15
☑ '84小樽博覧会	16
☑ 事務局日誌(2月)・雑感	17
☑ 新会員ご紹介	18~19
☑ ティータイム	20~21
☑ 告知板	22

円、民間一億円の基金予定額が計画を上回る目途もつきました。また、函館圏技術振興委員会、函館圏企業誘致推進協議会も設立され、道立函館工業技術センター、市の工業団地確保についての調査費の計上、函館市工業振興促進条例の制定など何れも活発な準備体制が整いつつあります。

「歴史と伝統にはぐくまれた国際性が開く北方圏テクノポリス」をキャッチフレーズに、一市三町約十万分の圏域内で北海道唯一のテクノポリス地域指定を受けることを弾みとして、まず水産加工、造船関連機械産業など既存の産業を生かした海洋関連産業群を振興させ、社会開発、資源活用産業群に波及する構想の実現に協力し、努力すべきであります。開発計画の成否は地域の自主的な取り組み「主役は地方」という言葉の重みをかみしめた地元の意欲、ユニークな施策が要求されます。頑張りますよ。





会 議 所 だ よ り

テクノ ポリス 函館は全道レベルで協力

道商連会員総会開催

七月十日から十二日まで、千歳市において開催

【決議事項】

1、昭和五十八年度商工会議所指導事業特別会計収支更正予算

2、昭和五十九年度事業計画

。景気対策の推進

。小規模事業対策の推進

。地域経済振興対策の推進

。経済自立化対策の推進

。商工会議所運営の強化

特別事業

。北方領土返還運動の促進

。交通安全運動の推進

3、昭和五十九年度収支予算

昭和五十九年度事業計画にもと

づき執行される収支予算について

収入については会費五千四百万円

をはじめ事業収入、補助金、雑収入、繰越金を計上、また支出とし

ては、小規模指導推進費、中小企業振興費等事業費一千五百九十万

円はじめ事務費会議費などを計上

し総額一億七百万円と対前年度

比三・四八%の増とする。

以上の決議をもとに道商連昭和五

十九年度の運営が行われます。

北海道商工会議所連合会（通称Ⅱ

道商連）の第九十五回通常会員総会

が三月一日午後一時三十分から北海

道経済センター（札幌市）で開催さ

れ、来賓・顧問として札幌通商産業

局商工部長、北海道商工観光部長、

国民金融公庫札幌支店長が、また本

所からは川田会頭、中島理事など道

内各地会議所の代表が多数参加し、

左記事項についての報告、決議が行

われました。

【報告事項】

1、日本商工会議所からの報告

。商業活動調整等

行政機関の役割の強化、商業活

動調整協議会の運営、運営経費

等、その他

。公益法人関係の税制改正

収益事業の範囲の改正について

2、昭和五十九年度北海道開発関係

予算

3、昭和五十九年度中小企業関係予

算

同予算は、財政再建という国家

的要請の下で二千二百九十二億円

（対前年度比五・五%減）となっ

たが、政府系金融機関の貸付規模

が総額で対前年度比四・八%増の

拡充が図られ、また小規模事業対

策費も三百九十六億六千九百万円

（対前年度比三・八%増）が確保

され、小企業等経営改善資金融資

制度についても、設備資金の貸付

限度額が三百五十万円から四百万

円に引き上げられることになった

4、（財）テクノポリス函館技術振興

協会

「テクノポリス函館」について

は、一地域の構想としてとらえる

のではなく、全道レベルでの構想

として道商連を中心に全道四十会

議所として基金への協力をする

5、第三十四回全道商工会議所大会



あいさつをする加藤委員長 (担当副会頭)

海峡博覧会会場など意見交換

津軽海峡博覧会開催推進特別委開催

昨年十一月の本所議員総会で設置された「津軽海峡博覧会開催促進特別委員会」(加藤憲委員長)の初会合が去る二月二十日午前十一時から本所議員室で開催されました。

委員長開会あいさつのあと、田中副委員長から、先に開かれた青函トンネル対策特別委員会で検討要望事項として出されていた「博覧会開催を経済活性化の導火線に」「受け入

れ体制の整備が必要」など八項目の報告が行われ、また「開催期日は六三年夏が最適であり、マスタープランの作成、プロジェクトチームの編成を急ぐべきである。会場はテクノポリス工業団地造成予定地を利用する」との構想が発表され、このあと意見交換が行われました。

北方凍魚の加工を研究

「水産物高次加工技術開発委」発足

本所農水産部会が去る三月十二日函館水産連合協議会と合同で開催されました。当日、討議された内容を要約すると次の通りです。

水産連合協議会では、当市水産業界を活性化の一助として、昭和五十七年度から北方凍魚の取扱について、その生産、加工、流通の各分野にわたり調査・研究をすすめてきました。これは当市水産加工原料の

特に、会場については「収容力の大きい大沼が望ましい」「周遊させるためにも分会場を設ける」など種々の意見が出されましたが、集客の重要な要素となるため今後引き続き分析検討されることになりました。一方「開催と同時に道南、函館の観光を売り出すべきであり、そのために道路交通体系、環境の整備は今から手がけて行かなければ間に合わない」と指摘されました。今後、開催実現へ向け活発に活動していくことを確認しました。

主力であるイカが資源の枯渇や価格高騰等で、安定した需給を満たしづらい現状をふまえ、イカに偏している企業体質改善のため北方凍魚船を誘致し、北方凍魚の加工開発をすすめる当市業界の長期的安定と発展を図ることを目的としたものです。このたびの会合では、これまでの調査・研究機構を発展的に改組し同協議会の専門の内部組織として

広く水産物の高次加工技術の研究と開発に務め、潤沢な加工原料の確保を図り、当市水産関連業界の振興発展に寄与することを目的に「函館水産物高次加工技術開発委員会」を設置し、目的達成のため

1、北方凍魚の加工開発
2、秋鮭(ブナ系を含む)の利用に
関する基礎的研究並びに新製品開発に係わる技術研究

3、イカ類の加工開発に関する研究並びに網ムラサキイカの褐変防止の研究

4、沿岸漁獲物(海藻、貝類を含む)の処理加工

5、北転船誘致に関する事項

6、水産加工製品の実態並びに流通の把握

等の事業を推進することが決まりました。

なお、同委員会の正副委員長に本所農水産部会長の木村勝太郎氏、同副部会長の豊山秋央氏の就任が内定し、本所農水産部会としても、テクノポリス構想の海洋関連産業群の集積拡大を目指し、水産物の高次加工技術の開発には今後とも積極的に支援してゆくことになりました。

人件費の上昇率は

生産性の上昇率の範囲で

春闘問題講演会

わが国経済がより長期的に安定状況を維持していくため官民挙げて取り組んでおりますが、一層の労使関係の安定化、適正な賃金の確立はその基盤となる重要課題の一つです。

本所と函館経営者協会では、そのような背景と春闘の時期を迎えたことから、去る二月十六日に日本経営者団体連盟（日経連）の中宮勇一事務局長を講師として招き、企業の経営者ならびに人事労務担当者を対象に標記講座を開催しました。

中宮氏は、日経連がかねてから提唱している消費者物価の安定、インフレ抑制の見地から「一人当り人件費の上昇率を生産性上昇率の範囲にとどめるべきである」とのいわゆる生産性基準原理の役割を強調したうえ、もはや賃金・労働問題は直接関係する分野だけでは十分な解決は困難であるとし、税金によって運営されている政府・地方を問わず行政機関のあり方―行財政改革問題、人口

の高齢化、日本社会の将来をふまえた教育問題にまでおよんで解説されました。

時代に即応できる設備と技術力を

新技術への取り取り方を示唆

氏名政川早川士理
井 演 講

当函館地域は、数年後に迫った青函トンネルの完成、テクノポリス建設促進等々二十一世紀へ向けて重大な転換期を迎えております。

このような時に当り、本所では去る二月二十三、四日の両日にわたり「これからの地域産業のあり方」と題して講演会を開催しました。これは例年、特許や実用新案など工業所有権に関して解説を行っているものを角度を変え、前文の時代背景下にあって地域の二次産業活性化に資するため、本所発明相談日の専門相談担当の早川弁理士を講師として行ったものです。

最後に、戦争直後新たな地歩を築いたわが国労働運動の指導者として対応した経営者が逐次第一線から引退している世代交替期にあるが、よき引き継ぎのもと民間企業の活力を十分に發揮出来る労使関係をさらに発展してほしいと結びました。

講師は、未来産業として成立するものについてカーボン繊維などの実物見本を回覧しながら、新技術への取り組み方について豊富な事例を引用しながら説明し、「特許などの関係情報を吸収しなければこれからの産業は成り立たない。大手企業の新製品を支えているのは、その傘下にある中小企業の新製品開発に対する熱意と協力である。企業誘致しても地域の中小企業が対応出来なければ発展は望めない。」と今後のあり方を示唆し、満席の聴講者に大きな刺激を与えました。

- 船舶法定備品
- 労働安全保護器具
- 船舶艀装用品
- 塗料・塗装

膨張式救命筏 サービスステーション
SOS 発信器

株式会社北村船具店

☎040 函館市末広町21番16号 電話/函館 (0138) 23-4151

企業誘致推進協スタート

テクノ
ポリス 指定への体制固める

企業誘致の推進母体である「函館
圏企業誘致推進協議会」が、二月二
十一日に設立され、会長に柴田市
長、副会長に金沢七飯町長と本所川
田会頭が選任されました。

企業誘致は「テクノポリス函館」
の重要課題の一つであり、市では昭
和五十七年四月から企業誘致室を設
け、四百社あまりの企業訪問を実施
してきましたが、その成果は今一つ
の状況にあり、四月から函館市工業
振興促進条例(企業誘致条例)が施行
されることから、今後は官民一体と
なって推進することになりました。

当日出席の委員からは、「企業訪
問等の場合は、誘致勧奨ばかりでは
なく将来企業が取り組む経営情報を
聴取するなど、地元企業が対応しう
る研究体制づくりが望ましい」、
「函館圏域の売り込み策として、早
急に工業団地の見取図、平方尺当り
の価格、工業用水、住宅、雇用状況、
文化学術といった具体的な内容のバ

ンフレットを作成すべきだ」、「や
みくもの企業誘致でなく、当圏域の
将来目標を踏まえての誘致運動の展

開と、企業が進出する際に何を最重
点に考えているか、その辺の調査研
究と合せ先進地域の視察を実施すべ
きだ」などの意見が出されました
が、当面は協議会のなかの幹事会が
中心となり、調査研究・情報交換を
行い、その後本格的な誘致活動を展
開することになりました。

第十五回「箱館五稜郭祭」は、
五月十一日に碑前祭を行い、その
あと五月十八日から二十日まで三
日間の日程で開催されることにな
りました。

この祭は、箱館五稜郭祭協賛会
(川田寛会長)の主催で行われる

ものですが
同協賛会は

15回箱館五稜郭祭

特別史跡五
稜郭を広く

横路知事を名誉会長に

各層に協賛
金のご協力
施するにあ
たり、広く

PRし、この資源の保存・整備を
推進するとともに、同地域で生ま
れた箱館五稜郭祭を更に盛大に挙
行するために、昭和四十八年に創
設されました。

箱館五稜郭祭は、全国的にも極
めてユニークな歴史祭として定着

してきておりますが、本年は、迎
えて十五回目の記念祭でもあり、
横路道知事を大会名誉会長に就任
いただくなど記念祭にふさわしい
内容の祭りとなるよう準備を進め
ています。
なお、同協賛会では記念祭を実
施するにあ
たり、広く
各層に協賛
金のご協力
を願うべく、後日、関係書類を送
付することにしていきますのでご協
力をお願いいたします。

※ ※ ※
※ ※ ※
※ ※ ※

御結納品・御祝儀物

松尾金子商店

函館市末広町8番12号 電話(0138)22-9718

ている模様。

(漁 業)

最盛期のスケトウ漁は、噴火湾ではここにきて漁模様が持ち直しているものの日本海側は引き続き不漁で、同地域の水揚げ金額は前年を大幅に下回っている模様。

一方、噴火湾養殖ホタテ漁は、解禁が遅れたため、水揚げ数量は前年を若干下回っているが、価格面は強含めに推移している。

(小売商況<1月中>)

市内大型小売店(10か店)では、これまで堅調に推移してきた食料品が前年を下回ったほか、身回り品、雑貨等の売れ行きも盛り上がりを欠いたが、主力の衣料品については、寒気到来および例年より早めの冬物セール奏効からやや持ち直したため、1月中の売上高は3か月振りに前年水準を僅かながら上回った。

この間、耐久消費財では、家電製品はVTRが堅調持続。また、白もの商品のうち昨夏来低迷していた冷蔵庫が幾分持ち直し。反面、乗用車販売はモデルチェンジの一巡に加え、多雪という天候要因も影響して、ここ3か月間前年水準を下回る状態が続いている。

3. 金融事情(1月中)

○管内金融機関の実質預金は、個人預金の伸び悩み持続に加え、昨年末滞留した法人流動性預金の剝落から、一般預金が大幅減少を示したほか、金融機関預金も前年を上回る流出をみたため、月中593億円の減少(前年同535億円)。

一方、貸し出しは水産関連等ごく一部で後ろ向き資金がみられたものの、季節資金の回収が順調であったほか、一部本州出先企業取引効率化を狙った貸出返済等もあり月中267億円の減少(前年同243億円)。

この間、管内銀行の貸出約定平均金利は月中△0.022%と引き続き低下したが、公定歩合引き下げの影響が大きかった前月の低下幅に比べかなり小幅化。

○銀行券は、中旬まで増発をみたあと、下旬には増発テンポが鈍化。また、還収は中旬を除き順調であったことを映し、月中還収超額は158億円と前年(同142億円)を1割方上回った。

○財政収支は、保険、租税等の受け入れが前年を若干上回ったほか、公共事業関係や国鉄の支払いが前年をかなり下回ったことを主因に、月中受超額は87億円(前年80億円)となった。 以上

統 計 資 料

函館市内第一種大規模小売店舗売上高(10店) 昭和59年1月

品 目	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣 料 品	2,967,184	71.6	100.8
身 回 品	561,441	69.7	97.1
雑 貨	775,884	70.8	99.4
家 庭 用 品	613,488	56.1	102.8
食 料 品	1,509,152	46.5	99.7
食 堂 ・ 喫 茶	230,138	95.7	100.2
サ ー ビ ス	63,521	83.3	104.7
そ の 他	285,261	82.6	112.7
総 額	7,006,069	63.4	100.7

※ 10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショップーズプラザ湯の川店の各店をいう。テオー小笠原については食料品を扱っていない。

1月

昭和59年2月27日発表

金融経済概況

日本銀行函館支店

1. 概況

○最近の管内経済動向をみると、電子部品（半導体）、化学（魚油、飼料）、製缶機械等が高水準の需要ないし受注残を映じて引き続き高い操業度となっている一方、海外受注不振の造船・合板機械は依然低操業を余儀なくされ、また段ボール、セメント等が冬場不需要期もあって生産水準を幾分低めとするなど、全体としてみれば、業種別の跛行色を残しながら盛り上がり乏しいこれまでの状態に格別の変化は窺われない。

この間、1月中の大型小売店売上高は、衣料品の持ち直しから3か月振りに前年水準を若干上回った。また家電製品は、VTRを中心にまずまずの売れ行きを示した反面、乗用車販売はこのところやや伸び悩んでいる。

金融面では、企業の資金需要は季節資金の回収がかなり進捗するなど、これまでの落ち着き基調に格別の変化は窺われない。管内銀行の貸出約定平均金利の1月中低下幅は、公定歩合引き下げの影響が大きく現われた前月に比べかなり縮小。

2. 主要業種別動向

（造船）

修繕船、陸上工事関係の受注は官公需中心にまずまずの伸びを示したものの、主力の新造船が受注に結びつくような案件がなく、引き続き厳しい環境が続いている。

（電子部品）

コンピュータおよびVTR等家電製品向けの需要増に加えOA・FA機器関連の需要もおお盛とあって、フル操業を続行。

（珍味）

例年の不需要期を迎え、更年後操業度は低下しているが、最近の原魚高を眺め問屋筋の仮需がみられていることから、出荷はまずまずの水準となっている。

（化学）

魚油、飼料は、最盛期に比べると生産ペースが季節的に低下しているものの、手持ち主原料が北転スケトウ漁の好漁もあり昨年に比べ幾分厚めとなっているため、なお高操業が持続。肥料は、生産調整を継続しており、また出荷も国鉄貨物駅合理化計画に対応した前月の仮需の反動減を主因に大幅な減少を示した。

（機械）

製缶機械は、缶詰機械、パーツ類の受注が漸増しているほか、高水準の既受注残の納期も迫っているため、引き続きフル操業体制。合板機械は、海外受注が伸び悩んでいるうえ、受注残もかなり減少しているところから、低操業持続を余儀なくされている。

（段ボール）

珍味、ホタテ等加工食品向け需要は堅調であるが、これまで好調であった青果物（馬鈴薯）向けがこのところ落ち込んでいるため、操業度は幾分低下気味。

（その他製造業）

漁網は、サケ・マス流し網の先行生産が一服気味であるものの、一般定置網は5年振りの免許更新を間近に控え増産体制にあるため、前年並みの生産水準となっている。セメントは、道内向けが冬場不需要期ということもあり低調。また、これまで比較的順調であった輸出も更年後やや落ち込みをみているため、低操業を続行。合板は、主力の大手宅建向け需要が降雪期とあって盛り上がりを欠いており、出荷は伸び悩み。この間、採算面も原木高・製品安を映じ悪化気味となっ

2. 個人消費

(1) 大型店売上高

58年（1～12月）の売上高は、総額で837億5,775万円で前年比1.1%の微増と、かつてない低い伸びにとどまった。

月別にみると、1～5月まではそれぞれ前年同月比2.9～7.5%増と比較的安定した伸びをみせたが、6月以降9月まで4カ月連続で前年同月を下回り、10月に入り回復したかにもえたが、11月、12月と再び前年同月を割る結果となっており、年の前半と後半で明暗を分けた格好となった。

また、品目別では、衣料品 333億653万円（前年比0.5%減）、身回品 62億8,948万円（同1.9%減）、雑貨88億1,419万円（同2.3%増）、家庭用品86億707万円（同増減なし）食料品209億9,647万円（同4.7%増）、食堂・喫茶23億5,898万円（同2.5%減）、サービス7億1,298万円（同4.1%増）、その他26億7,204万円（同4.2%増）となっており、異常気象の影響が大きかった最主力の衣料品はもとより、各品目とも伸び悩みが目立っている。

(2) 新車登録台数

58年（1～12月）の新車登録台数は24,885

台で、前年比3.2%の増と堅調な伸びをみせた。これは前年に引き続きユーザーの購売意欲がおう盛で、また、メーカー側の新型車等の企画が例年以上に活発であったこと、また懸念された3年車検の実施についても比較的順調に移行したことによるものと思われる。

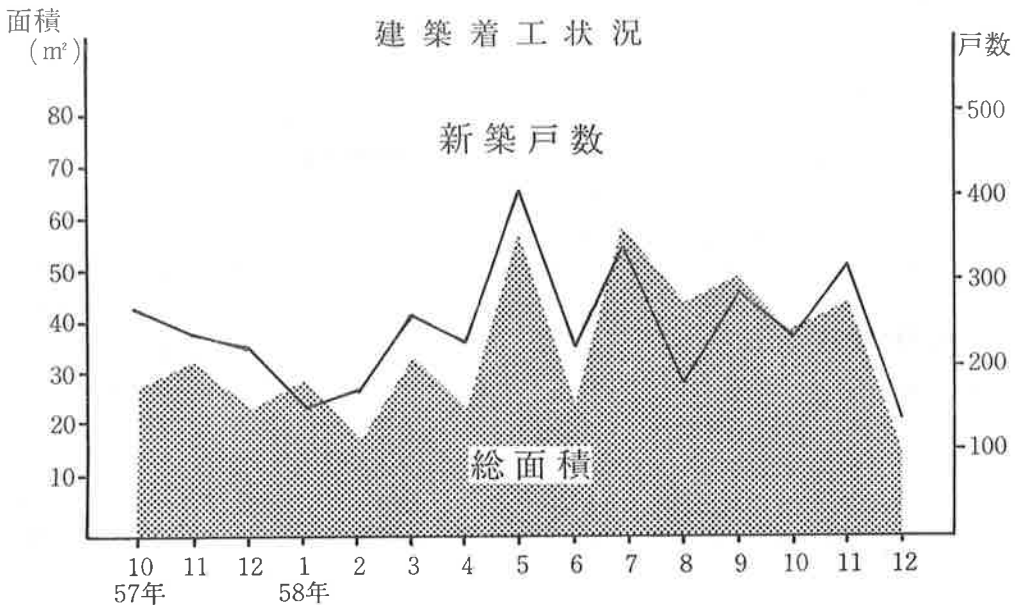
しかし、伸び率では57年（7.2%増）を下回っており、これは、ここ数年高い伸び率で推移してきた軽自動車が、年後半伸び悩んだこと、また、長期不況下において貨物等大型自動車の販売が低迷していることによるものと思われる。

(3) 建築着工状況

58年（1～12月）の函館市内建築着工状況は、建築物床面積合計が、前年比1.8%減の438,308㎡で、このうち住宅部分床面積は269,331㎡で10.2%減少している。

また、住宅総戸数をみると前年に比べ0.8%減の3,715戸であり、このうち新築住宅は2.6%減の3,059戸となった。

前年より若干でも増加しているのは、住宅以外建物床面積（15.4%増）と、増改築戸数8.6%増だけで依然低迷が続いている。



経済の窓

函館地域の
主要経済動向

1. 公共事業発注状況

昭和58年12月までの函館管内公共事業発注状況は、総体の発注額が585億9,800万円、発注率97.3%となっており、発注率では前年同期(97.2%)と同程度で、今年度予定事業はおおむね消化されているが、国・道関係の予算規模が前年度より縮小しているため、金額では前年同期(600億2,500万円)より14億2,700万円減少している。

機関別にみると、函館開発建設部は発注額203億6,300万円、発注率96.8%で、前年同期(217億円、98.4%)より金額で13億3,700万円の減となっている。また事業別では、多目的ダム事業(発注率73.3%)、土地改良事業(同86.2%)で若干の予算枠があるほかは、道路事業(同98.4)、河川事業(同94.5%)、漁港事業(同94.6%)、港湾事業(同99.2%)

共に予定事業はおおむね発注済となっており、農用地事業、災害関係事業では全て発注済となっている。

函館土木現業所は、発注額229億5,800万円、発注率98.2%で前年同期(248億1,100万円、97.8%)より、金額で18億5,300万円減少している。予算枠に若干の余裕があるのは河川事業(発注率88.0%)だけで、道路事業(同98.7%)、ダム事業(同99.9%)、砂防事業(同99.0%)、漁港事業(同99.7%)、災害事業(同98.8%)等、予定事業はおおむね発注済となっている。

函館市では、発注額152億7,700万円、12月補正後予算に対する発注率が96.7%で前年同期(135億1,400万円、94.2%)より、金額で17億6,300万円の増加となっている。年度当初こそ地方選挙の影響もあり、予算規模、発注額とも前年度に比べ縮小していたが、ここへきて、前年を上回る発注額、進捗状況となった。

部局別では下水道部(発注額24億6,100万円、発注率98.6%)、教育委員会(17億8,400万円、96.5%)が金額で前年同期を下回ったほかは土木部(38億1,200万円、95.8%)、都市建設部(12億3,800万円、97.8%)、港湾部(7億9,800万円、98.3%)、その他(51億8,400万円、96.1%)共に発注額、率で前年同期を上回り、予定事業をおおむね終了している。

主要機関公共関連工事発注状況

(単位: 百万円、%)

	函館開発建設部		函館土木現業所		函館市	
	金額	発注率	金額	発注率	金額	発注率
昭和56年度	22,949		24,666		13,547	
昭和57年度	22,368		25,941		14,401	
昭和58年4月	3,365	16.1	5,479	27.1	383	4.4
5月	11,412	54.6	10,573	49.1	2,758	31.9
6月	13,748	65.7	14,818	68.9	3,452	39.9
7月	15,316	73.2	16,359	76.1	5,840	48.7
8月	16,835	80.5	17,589	81.8	7,049	58.7
9月	18,161	86.4	19,901	88.3	9,435	78.6
10月	18,912	89.9	21,042	93.4	10,769	68.9
11月	19,586	93.1	21,939	94.3	14,556	92.5
12月	20,363	96.8	22,958	98.2	15,277	96.7

各月数字は累積合計を示す

(資料: 函館開発建設部、函館土木現業所、函館市)

※函館市の発注率は下記による。

58年4~6月の発注率(契約率)は年度当初予算に対する数値である。

// 7~9月 // 6月補正後予算 //
 // 10~11月 // 9月 //
 // 12~2月 // 12月 //

ピント 繁栄 ぴんと

大きいことは

良いことか？

●人の行く裏に道あり春の山

ひと頃「大きいことはいいことだ」というコマーションが流行しましたが、はたして大きいことは、絶対には有利だと言いつけるものでしょうか？

「大きいこともいいことだ」に過ぎず、逆に小さいから必ず負けとは限らず、「小さいこともいいことだ」ということも、あり得るのではない

でしょうか。

今からおよそ一億五千万年程以前に、この地球上で大変な猛威をふるい、幾万年も繁殖を続けた巨大な動物プロントサウルス（巨竜）は、環境が激変したある時機の到来と共にその凶体の大きさをゆえに、それをもてあまし、敏捷な対応が出来なくて種族絶滅の悲劇をたどり、この世から抹消されてしまったと伝えられますし、古代の長毛の象マンモスも、大きくて動作がにぶかったがために、氷河期を迎えて食料事情が悪くなると、耐え切れず自滅したと言われます。

また更にマンモスは、外敵との闘いで、完全に競争負けをしたとも言われていますが、このマンモスの強敵とは、学名スミロドンと称される古代の虎で、現存の虎よりも一回りも小さなからだでありながら、非常に動作がす早く、剣のようにするど

い牙という絶対的な武器を有して、これをマンモスの急所に突き刺して、全くカモにし、常食にしたのだそうです。凶体の大きさは数十倍、数では百倍近くもいたというマンモスが、この小さく、しかも数において劣勢の相手にやられたのですが、このあたりはまさに、大企業に対するわれわれ中小企業の闘い方を教えてくれるものではないでしょうか。

つまり、小なるものが大なるものに立ち向うには、何か絶対というキメ手になる得手を持ち、かつ小回りの効くスピード感覚を忘れないで、まともなぶつからず、必ず相手と違ったやり方で当たり、その弱点を突くということですね。

「人の行く裏に道あり春の山」という句ではありませんが、スキマを狙う戦略や、逆張りの勝ち目も必ずあるはずですね。

巨大な動物どうしの壮絶な闘いの中をかいぐり、彼等が減び去った激烈な環境のもとで、結局最後に生き残り得たものは、むしろ小さな動物達であったのです。

きびしい環境の変化と競争の中で、それぞれの種族の繁栄をはかっ

トラピスト乳製品・白い恋人・洞爺湖  ・有名みやげ品・和洋酒



高砂屋

函館駅前店 ☎22-5038 函館空港売店 ☎57-9500
ホーニアネックス内店舗 ☎26-1211

ている、このような自然界の動植物の生きざまや生存の知恵は、今日のわれわれ企業経営にも大いに勇気を奮い起こし、ヒントを授けてくれます。環境の変化を意識し、それに積極対応してこそ、万物は進化し、うまくこれに順応してこそ、生存が許されるではありませんか。

●何かNo.1といえる

キメ手を持って!

馬一頭を三十秒で倒すほどの猛毒を持つことで、多くの動物から恐れられ、嫌われているものにコブラという蛇がいるが、この毒蛇を全くカモにしているのが、決して大きなすゝり動物ではなく、小さくおとなしいマングースであるから愉快だ。

牙もなければ針も持たないこの小動物が、何故コブラに勝てるのかを見てみると、競争を勝ち抜くカンところを学ぶことができましょう。

マングースは、まず第一に、表面はおとなしそうですが、いざとなった時、内に秘めた根性はたくましく、決して弱気で尻尾をまいて逃げようとせず、敵に後を見せないで、相手

をにらみつけたまま、一步もたじろがず、強気で立ち向っている。

第二に、実に相手をよく研究しているということ、第三に、自分の身の程を知り、その持ち味をフルに発揮しているということ、そして第四に、小さくてもスピードがあり、一瞬たりとも立ちどまらず、敏捷に動き回わり、最後にもう一つ、前後左右、全く同じ早さで動けるといったキメ手となる特性を持っているからです。まさに小よく大を制すの好例といえましょう。

競争とは相手のある勝負であり、相手との差別化により決着をつけようとするものだから、先ず誰と闘い、誰とは仲よく腕を組むのかをハッキリさせねばなりません。

これがライバルというものです。が、三種類のライバルを上手に使い分けて下さい。

自分以外はすべて敵といった考え方は、匹夫の勇であり、知的な真の勇氣とは申せません。このことは、第二次世界大戦における日本の敗戦が明確に立証してくれます。

第一のライバルには、終極の目標とするライバルであり、くやしくて

も、すぐに喧嘩はしかけられませんが、

第二のライバルには、段階目標ライバルで、胸を借り、見習わせていただく兄貴分であり、これを成長への手がかりとします。

第三が、当面先ず徹底的に叩きつぶすべき攻撃目標ライバルですが、これは目の上の敵でなく、むしろ足下の敵であり、これを踏み台として次の飛躍を考えるのです。

その他の競争に勝ち抜くためのポイントを列挙しておきましょう。

①市場における自店の地位(シェア
||市場占拠率)を知り、強者は強者なり、弱者は弱者なりの戦略を展開すること。

②弱者は全面戦争で戦線を拡大せず、限定戦の一騎打ち、ゲリラ戦法で挑め。

③相手の弱点を徹底的に狙え。

④団結は力なり。弱者が圧倒的な強者に立ち向うには、結束こそが最高の得策。

⑤最も賢明で功妙な競争戦略は、無易な戦いを避け、戦争をしないことであり、そのためには独自の道を見出すことである。

中国一品料理の店

☐各種ご宴会・ご会食にお座敷をご利用

下さい。(40名様迄収容できます)

☐中華仕出し料理承ります。

祝事・ホームパーティー等にご利用下さい。

中国料理

東春

松風町2-12(スカラ座向い)
TEL 22-5750



着想のヒントー私の着想法ー

宇宙開発委員会専門委員

佐貫 亦男

衣服の配色をきめるとき、問題になってくる色と色をならべてくべてみる。そうすると、各色を別々にして想像した配色と実際の配色とはまるで感じがちがう。合うだろうと予測した配色が全然悪かったり、

反対に、まさかと考えていた配色が意外によかったりする。従って、女性などは、絶対にならべてみない限り、衣服の配色決定をしない。経験によってその原則をよく知っているからである。

この原則を他の方面に利用しない手はない。日本人としての自分の発想を、道具と機械の設計製作にかけてはまだ極めて有能なドイツ人の発想と、現地で「配色くらべ」をする方法である。即ち、ドイツへ出かけて、あらゆる機会を利用して、彼らの生きかた、考えかた、物の作りかたを日本人のそれと比較する。この

意味では、比較発想法というべき手法であろう。それは絶対発想法より実行が容易で、評価も正確に決定できる利点を持つ。

配色を眺めるとき、人工光線などの下を避けると同じように、ドイツでは雑音の多い大都市を敬遠し、中市（人口五万〜十万人）から小都市（人口五万人以下）を選ぶ。そこで新鮮な環境と、先入感のない心境でじっくりと発想比較を行う。とくに小都市は、中世のおもかげ、たとえば城壁・城門のようなものがまだ残っていると選ぶ。ドイツ人はこのような古いものを愛情こめて手入れして保存しているから、彼らの真の心情を汲みとる絶好の場所となる。ただし、もはや完全に観光地化したローデンプルグのようなところは避けたい。ここは日本人客も多く、とても静かに着想する気分

にならぬ。

私はこのような計画を始めてから、単に日本人の発想とドイツ人の発想を個別に考えていたときよりも、格段に多くの事実、意外な結果宿命的な経過を知った。それを要約するとつぎのようになる。

① ドイツ人は着想の重厚な積み重ねによって、すぐれた道具と機械を作り上げ、生活環境を美しく整備してきたが、彼らの運命はそれに合うように幸運ではなかった。それはいま東西ドイツに分離した悲運によって単的に実証されている。

② この原因は彼らの人間性に対する洞察の欠如、あるいはそれに対する興味の薄さにあると信じる。言い換えると、ドイツ人は科学と技術を学ぶための最良の教師であるが、国の運命を預ける委託先ではない。それは今世紀に入ってから二つの大戦で同盟国に与えた打撃によっても理解できる事実である。

このような事実を拘らず、私はドイツを愛し、ドイツ人を好むが、これは着想法と別の問題であるから、こ

こでは深く議論を進めない。ただ、注意すべきは、この配色くらべにおいて、調べている日本人自身がドイツ人から発想法を観察されていることである。そのつもりで態度を自制したらい。

さて、いまの例は日本人とドイツ人の発想比較であるが、当然それは他の民族について行うことができ。さらに他の日本人についてもさしつかえないが、そのときはあまり劇的な成果が得られないであろう。なぜかといえば、わかっていることが多いためである。

いま日本は国際的な視野で物を考え、行動する必要がある。そのときこの比較発想法は、日本人がいかに着想し、どうして実行し、どんなものを作るべきかを定め、日本民族の生死を決定する。従って、単なる旅の随想ではない。私もそのつもりで、これからもこの実り多い旅を実行し、確かなものをつかみたいと決心している。